

問 1 正解 完璧 直前チェック

エンタープライズアーキテクチャ (EA) のビジネスアーキテクチャで機能情報関連図 (DFD) を作成する目的はどれか。

- ア 業務・システムの機能と情報の流れを明確にする。
- イ 業務・システムの目的・機能、情報システムの管理・運用体制を明確にする。
- ウ 情報システム間でやり取りされる情報の種類と方向を明確にする。
- エ 物理的なデータ構造を明確にする。

問 2 正解 完璧 直前チェック

SCOR (Supply Chain Operations Reference model) で定義している SCM に関する実行プロセスのうち、自社にとっての Source に当たるものはどれか。

- ア 資材などの購入
- イ 受注と納入
- ウ 納入後に発生する作業
- エ プロダクトの生産、サービスの実施

問 3 正解 完璧 直前チェック

レコメンデーション (お勧め商品の提案) の例のうち、協調フィルタリングを用いたものはどれか。

- ア カテゴリ別に売れ筋商品のランキングを自動抽出し、リアルタイムで売れ筋情報を発信する。
- イ 顧客情報から、年齢、性別などの人口動態変数を用い、“20代男性”、“30代女性”などにセグメント化した上で、各セグメント向けの商品を提示する。
- ウ 顧客同士の購買行動の類似性を相関分析などによって求め、顧客Aに類似した顧客Bが購入している商品を顧客Aに勧める。
- エ 野球のバットを購入した人に野球のボールを勧めるなどあらかじめ用意されたルールに基づいて、関連商品を提示する。

問 1 ア

解説 エンタープライズアーキテクチャ (EA: Enterprise Architecture) は、各業務と情報システムを、ビジネスアーキテクチャ (政策・業務体系)、データアーキテクチャ (データ体系)、アプリケーションアーキテクチャ (適用処理体系)、テクノロジーアーキテクチャ (技術体系) の四つの体系で分析し、全体最適化の観点から見直すための技法である。機能情報関連図 (DFD) は、業務・システムの機能と情報の流れを明確にするため作成される。

問 2 ア

解説 SCOR は、サプライチェーンマネジメントのための共通言語としてプロセス、フローを定義したものである。SCOR は五つのプロセスタイプ、Plan (計画)、Source (調達)、Make (生産)、Deliver (受注/納入)、Return (返品) と、3段階の詳細レベル、レベル1、レベル2、レベル3のセットが定義されている。

ア: Source に該当する。よって正解。

イ: Deliver に該当する。

ウ: Return に該当する。

エ: Make に該当する。

問 3 ウ

解説 レコメンデーションは、他の人も買っているものや参照しているものを各個人に対して提示する仕組みである。協調フィルタリングは、購入履歴が似たパートナーの人が、まだ購入していないものを勧めるといったアルゴリズムのレコメンデーション手法である。

ア: リアルタイムレコメンデーションの説明である。

イ: セグメンテーションの説明である。

エ: レコメンデーションのルールベースでの提示説明である。

問 4 正解 完璧 直前チェック

IT投資案件において、投資効果をPBP (Pay Back Period) で評価する。投資額が500のとき、期待できるキャッシュインの四つのシナリオa～dのうち、PBPの効果が最も高いものはどれか。

a

年目	1	2	3	4	5
キャッシュイン	100	150	200	250	300

b

年目	1	2	3	4	5
キャッシュイン	100	200	300	200	100

c

年目	1	2	3	4	5
キャッシュイン	200	150	100	150	200

d

年目	1	2	3	4	5
キャッシュイン	300	200	100	50	50

ア a イ b ウ c エ d

問4 工

解説 PBPとは、回収期間法と呼ばれる投資効果の評価方法の一つである。投資額の回収期間の短さに着目する方法である。

各シナリオにおいて期待できるキャッシュインから、投資額500の回収にかかる年数を計算する。

シナリオ a : 3.2年

シナリオ b : 2.66…年

シナリオ c : 3.33…年

シナリオ d : 2年

よって、選択肢エのシナリオ d の投資効率が最も高い。

問 5 正解 完璧 直前チェック

情報システムの全体計画立案のためにE-Rモデルを用いて全社のデータモデルを作成する手順はどれか。

- ア 管理層の業務から機能を抽出し、機能をエンティティとする。次に、機能の相互関係に基づいてリレーションシップを定義する。さらに、全社の帳票類を調査して整理し、正規化された項目に基づいて属性を定義し、全社のデータモデルとする。
- イ 企業の全体像を把握するために、主要なエンティティだけを抽出し、それらの相互間のリレーションシップを含めて、鳥瞰^{かん}図を作成する。次に、エンティティを詳細化し、全てのリレーションシップを明確にしたものを全社のデータモデルとする。
- ウ 業務層の現状システムを分析し、エンティティとリレーションシップを抽出する。それぞれについて適切な属性を定め、これらを基にE-R図を作成し、それを抽象化して、全社のデータモデルを作成する。
- エ 全社のデータとその処理過程を分析し、重要な処理を行っている業務を基本エンティティとする。次に、基本エンティティ相互のデータの流れをリレーションシップとして捉え、適切な識別名を与える。さらに、基本エンティティと関係があるデータを属性とし、全社のデータモデルを作成する。

問 6 正解 完璧 直前チェック

LBOの説明はどれか。

- ア 株式市場で一般株主に対して、一定期間に一定の価格で株式を買い付けることを公告し、相手先企業の株式を取得する。
- イ 現経営陣や事業部門の責任者が株主から自社の株式を譲り受けることによって、当該事業の経営権を取得する。
- ウ 投資会社が、業績不振などの問題を抱えた企業の株式の過半数を取得した上で、マネジメントチームを派遣し、経営に参画する。
- エ 買収先企業の資産などを担保に、金融機関から資金を調達するなどして、限られた資金で企業を買収する。

問5 イ

解説 全社のデータモデルを作成するために、段階的にデータモデルを作成する方法がある。その作業は、基本的なエンティティだけを抽出してデータモデルを作成し、それを詳細化していく。よってイが正解。

- ア：機能をエンティティにすることはできない。
- ウ：業務層からではなく、全社的なシステムの分析を行う。
- エ：業務を基本エンティティとすることはできない。

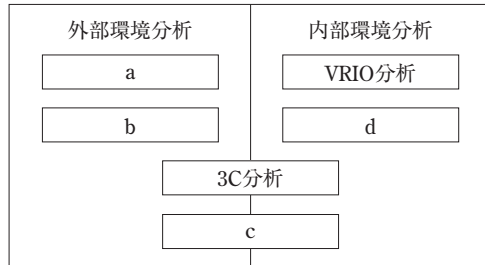
問6 エ

解説 LBO (Leveraged BuyOut) は、企業買収を行う際に、買収先企業の資産や将来の収益を担保に資金調達する方式である。よってエが正解。

- ア：TOB (Take Over Bid) の説明である。
- イ：MBO (Management BuyOut) の説明である。
- ウ：敵対的買収の説明である。

問 7 正解 完璧 直前チェック

環境分析の代表的なフレームワークについて、外部環境を分析するものと内部環境を分析するもので整理した図のcに当てはまるものはどれか。ここで、ア～エはa～dのいずれかに対応する。



- ア PEST分析 イ SWOT分析
ウ バリューチェーン分析 エ ファイブフォース分析

問 8 正解 完璧 直前チェック

コアコンピタンスに該当するものはどれか。

- ア 主な事業ドメインの高い成長率
イ 競合他社よりも効率性が高い生産システム
ウ 参入を予定している事業分野の競合状況
エ 収益性が高い事業分野での市場シェア

問7 イ

解説

PEST分析：マクロな外部環境分析から、分析対象の企業に大きな影響を及ぼしそうなことをピックアップし、今後に与える影響を考える (aに該当)。

SWOT分析：組織や個人の内外の市場環境を分析する手法。自社の強み (Strengths)、弱み (Weaknesses)、機会 (Opportunities)、脅威 (Threats) の要素を分析することによって自社の強みを維持し、弱みを克服しようとする。外部環境分析と、内部環境分析の中間にあたる。よって正解。

バリューチェーン分析：バリューチェーン活動における付加価値、コストや強み・弱みを明確にするのがバリューチェーン分析である。外部環境分析にあたる。マイケル・E・ポーターの提唱するバリューチェーンモデルでは、企業の活動を上流から下流に至る事業の流れに沿って、「購買物流」「製造」「出荷物流」「マーケティングと販売」「サービス」の五つの主活動と、これら主活動をサポートする「調達活動」「技術開発」「人的資源管理」「全般管理 (財務、法務、情報サービスなど)」の四つの支援活動に区分している (bに該当)。

ファイブフォース分析：ファイブフォース分析は、マイケル・ポーターが提唱した、「市場に存在する五つの競争要因」から、業界構造分析を行うフレームワークである。内部環境分析にあたる。ファイブフォース分析の主な要素は、①新規参入者の脅威、②パイアの交渉力、③競争業者間の敵対関係、④代替製品の脅威、⑤サプライヤの交渉力、という観点から分析する (dに該当)。

問8 イ

解説

コアコンピタンス：顧客に対して勝ち提供する企業内部の一連のスキルや技術の中でまねができない、その企業ならではの強みのこと。

コアコンピタンス理論：ゲリー・ハメル教授と、C・K・ブラハード教授が、主に日本企業の強みの研究に基づいて提唱する経営戦略論である。コアコンピタンス経営とは、「顧客に対して他社には提供できないような利益をもたらすことができる、企業内部に秘められた独自のスキルや技術の集合体を活かした経営」と定義されている。よってイが正解。

ア、ウ：事業ドメインでおかれている状況であるため、コアコンピタンスには該当しない。

エ：収益性が高い分野での市場シェアは強みとなるが、コアコンピタンスには該当しない。

問 9 正解 完璧 直前チェック

ブルーオーシャン戦略の特徴はどれか。

- ア 価値を高めながらコストを押し下げる。
- イ 既存の市場で競争する。
- ウ 既存の需要を喚起する。
- エ 競合他社を打ち負かす。

問 10 正解 完璧 直前チェック

FSP (Frequent Shoppers Program) の説明はどれか。

- ア Webサイトの閲覧者が掲載広告のリンク先であるECサイトで商品を購入した場合、広告主からそのWebサイト運営者に成果報酬を支払う仕組みである。
- イ 期間を限定した値引きの販売施策を見直し、コスト削減によるローコストオペレーションを実現させて、恒常的な低価格戦略を展開することである。
- ウ 顧客に会員カードなどを発行して購買情報を収集し、顧客には割引ポイントの付与や会員割引の特典を与えるなど、優良顧客の維持拡大を図る仕組みである。
- エ 顧客の購買行動における、直近購買日、購買頻度、購買金額の3要素を用いて、優良顧客のセグメンテーションなどを行う顧客分析手法のことである。

問 11 正解 完璧 直前チェック

消費者市場のセグメンテーション変数のうち、行動的変数はどれか。

- | | |
|----------------|---------------|
| ア 社会階層、ライフスタイル | イ 使用頻度、ロイヤルティ |
| イ 都市規模、人口密度 | エ 年齢、職業 |

問9 ア

解説 ブルーオーシャン戦略とは、競争のない未開拓の市場でビジネスを行うことで、より収益性の高い事業を展開することである。対義語として、レッドオーシャン、すなわち競争の激しい既存の市場がある。

ア：ブルーオーシャン戦略の一つである。未開拓の市場にてビジネスを行い、価値の上昇と効率化を行う。

イ、ウ、エ：レッドオーシャンの特徴である。

問10 ウ

解説 FSPは、店に貢献してくれる顧客には、ポイントカードや会員カードなどを発行し、会員割引などの優良顧客による維持拡大を図る仕組みである。よってウが正解。

ア：アフエリート広告の説明である。

イ：EDLP (Everyday Low Price) の説明である。日常的に安く販売し、顧客を集める戦略である。

エ：RFM分析の説明である。顧客の購買行動を「最終購買日 (Recency)」「購買頻度 (Frequency)」「累計購買金額 (Monetary)」の三つの指標から分類し、顧客の選別と格付けを行うこと。それぞれの頭文字を取った用語である。

問11 イ

解説 セグメンテーションは、マーケティング対象を一部に絞り込むときの範囲を示すものである。特定のセグメンテーションに対して、効果が予想されるマーケティングを実施していく形である。セグメンテーションに用いられる変数は、人口動態変数、地理的変数、心理的変数、行動的変数である。よってイが正解。

ア：心理的変数に該当する。

ウ：地理的変数に該当する。

エ：人口動態変数に該当する。

問 12 正解 完璧 直前チェック

ジェフリー・A・ムーアはキャズム理論において、利用者の行動様式に変化を強いるハイテク製品では、イノベータ理論の五つの採用者区分の間に断絶があると主張し、その中でも特に乗り越えるのが困難な深く大きな溝を“キャズム”と呼んでいる。“キャズム”が存在する場所はどれか。

- ア イノベータとアーリーアダプタの間
- イ アーリーアダプタとアーリーマジョリティの間
- ウ アーリーマジョリティとレイトマジョリティの間
- エ レイトマジョリティとラガードの間

問 13 正解 完璧 直前チェック

経営戦略に用いるCSF分析で明らかになるものはどれか。

- ア 業界内の競争に影響する要因と、自社の強み
- イ 競争環境の脅威と機会、企業の強み・弱み
- ウ 成功するための重要な機能や特性
- エ 保有する事業の成長性と収益性

問 12 イ

解説 テクノロジー業界において新製品や新技術を市場に浸透させていく際に見られる、初期市場からメインストリーム市場への移行を阻害するキャズム（深く大きな溝）のことを指す理論である。アーリーアダプタとアーリーマジョリティの間にキャズムがある。よってイが正解。

イノベータ（革新者）：新しいものを積極的に試す人たち。

アーリーアダプタ（初期採用者）：イノベータほど積極的ではないが、比較的積極的に購買する。

アーリーマジョリティ（前期追随者）：新しいものを受け入れるのに比較的慎重に対応する人。

レイトマジョリティ（後期追随者）：新しいものを受け入れるのに比較的慎重に対応する人で、さらに新しいものに懐疑的である。

ラガード（遅滞者）：五つの中で最も保守的で、新商品の導入はほとんど行わない。中には全く新商品を導入しないということもある。

問 13 ウ

解説 事業成功要因（CSF：Critical Success Factor）分析は、企業の差別化、優位性の確立など、企業が成功するための要件を明らかにする手法である。よってウが正解。

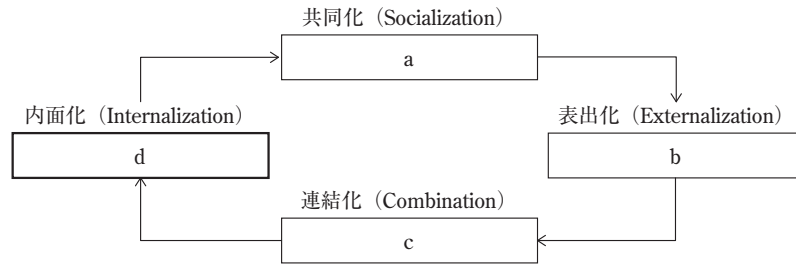
ア：アドバンテージマトリクスの特徴である。

イ：SWOT（Strengths, Weaknesses, Opportunities, Threats）分析の特徴である。

エ：プロダクトポートフォリオ分析の特徴である。

問 14 正解 完璧 直前チェック

図は、SECIモデルの知識変換プロセスに基づき、製造現場において、熟練工の技能を若手技能者に伝承する例を示したものである。dに該当する活動はどれか。ここで、ア～エは、a～dのいずれかに該当する。



- ア 現場作業やOJTを通じて、熟練工と若手技能者間において製造のための知識や課題を確認するとともに、文書化されていない技能の存在を認識する。
- イ 熟練工がもつ技能のうち、文章、図表、数式によって表現が可能なものを熟練工と若手技能者間において確認しながら作業手順書などの文書にまとめる。
- ウ 若手技能者が、得られた知識をデータベースに記録し、これらを整理・分類し、組み合わせることによって、新しい作業手順を生み出す。
- エ 若手技能者が、得られた知識を基に実際の作業を繰り返し経験することによって、知識を自分の技能として体得する。

問 15 正解 完璧 直前チェック

特許を分析して生まれた問題解決技法であり、問題(矛盾)を創造的・発明的に解決するための弁証法的な思考法を具体的な方法論にまとめたものはどれか。

- ア QFD イ TRIZ
ウ シックスシグマ エ 親和図法

問 14 工

解説 SECIモデルとは、個人の暗黙知を形式化し、共有することで組織としての知識想像力を高める考え方である。一橋大学大学院教授の野中郁次郎教授が提唱した考え方である。

共同化：経験の共有などによって、暗黙知を獲得や伝達するプロセス

表出化：得られた暗黙知を共有できるように形式知へとするプロセス

連結化：形式知を組み合わせて新しい形式知を創造するプロセス

内面化：新しい形式知を個人が実践を行い、その知識を取得するプロセス

ア：共同化に該当する。

イ：表出化に該当する。

ウ：連結化に該当する。

エ：内面化に該当する。よって正解。

問 15 イ

解説

QFD (Quality Function Deployment)：市場の要求を円滑に技術分野に伝達するための総合的品質管理の手法で、設計に携わる様々な人(市場調査・設計・製造等)が用いる言葉の対応関係およびその強さをマトリックスとして表現することにより、異なる部門間の情報伝達および設計解の評価を行う。

TRIZ：旧ソ連海軍の特許審議官アルトシュラーが膨大な特許情報を分析した結果より導き出した一連の発明の法則をまとめたもの。

シックスシグマ：主に製造業において、統計分析手法、品質管理手法を体系的に用いて製品製造工程などの各種プロセスの分析を行い、原因の特定やそれらへの対策を行って、不良率の引き下げや顧客満足度の向上などをめざす品質管理活動である。

親和図法：集めた情報やアイデアを親和性によってグループ化することで、問題の本質を明らかにする図法。新QC七つ道具の一つである。

問 16 正解 完璧 直前チェック

XBRLを説明したものはどれか。

- ア 企業内又は企業間で使用される複数の業務システムを連携させることであり、データやビジネスプロセスの効率的な統合が可能となる。
- イ 小売店の端末からネットワーク経由で発注を行うことによって、迅速かつ正確な発注作業が実現でき、リードタイムの短縮や受発注業務の効率向上が可能となる。
- ウ 財務報告用の情報の作成・流通・利用ができるように標準化した言語であり、適業務パッケージやプラットフォームに依存せずに財務情報の利用が可能となる。
- エ 通信プロトコルやデータフォーマットの標準的な規約を定めることによって、企業間での受発注、決済、入出荷などの情報の電子的な交換が可能となる。

問 17 正解 完璧 直前チェック

ボランタリーチェーンを説明したものはどれか。

- ア 加盟店が一定のロイヤリティを本部に支払って、本部の経営ノウハウ、商標、サービスマークなどを用いて販売活動を行う。
- イ 生産者・卸売業者・小売業者の間で、購買、生産、販売及び物流の一連の業務を全体最適の視点から見直し、納期短縮や在庫削減を図る。
- ウ 複数の小売業者が独立性を維持しながら、一つのグループとして、仕入れ、宣伝、販売促進などを共同で行う。
- エ 本部が複数店舗の仕入れを一括して行い、各店舗は本部の経営方針に基づいた販売活動に専念する。

問 18 正解 完璧 直前チェック

TOCの特徴はどれか。

- ア 個々の工程を個別に最適化することによって、生産工程全体を最適化する。
- イ 市場の需要が供給能力を下回っている場合に有効な理論である。
- ウ スループット(=売上高-資材費)の増大を最重要視する。
- エ 生産プロセス改善のための総投資額を制約条件として確立された理論である。

問 16 ウ

解説

XBRL (eXtensible Business Reporting Language) : 各種事業報告用の情報(財務・経営・投資などのさまざまな情報)を作成・流通・利用できるように標準化されたXMLベースのコンピュータ言語である。よってウが正解。

- ア : EAI (Enterprise Application Integration) の説明である。
- イ : EOS (Electronic Ordering System) の説明である。
- エ : EDI (Electronic Data Interchange) の説明である。

問 17 ウ

解説

ボランタリーチェーンは、独立した複数の小売業者が一つのグループとして仕入れや、宣伝、販売促進などを行う方式である。よってウが正解。

- ア : フランチャイズチェーンの説明である。
- イ : サプライチェーンマネジメントの説明である。
- エ : スーパーマーケットの説明である。

問 18 ウ

解説

TOC (Theory of Constraints) は、制約条件の理論と訳される。生産工程のボトルネックを制約条件として、生産の最適化のためには工程スケジュールをボトルネックに合わせるか、ボトルネック工程を重点的に改善するという考え方。よってウが正解。

- ア : TOCでは、個々の工程ではなくボトルネック工程を重点的に管理することを述べている。
- イ : 需要<供給となっている場合は、需要の創出か供給の調整が行われる。
- エ : TOCの制約条件はボトルネックの工程である。総投資額を制約条件とするものではない。

問 19 正解 完璧 直前チェック

BCM (Business Continuity Management) において考慮すべきレジリエンスの説明はどれか。

- ア 競争力の源泉となる、他社に真似のできない自社固有の強み
- イ 想定される全てのリスクを回避して事業継続を行う方針
- ウ 大規模災害などの発生時に事業の継続を可能とするために事前に策定する計画
- エ 不測の事態が生じた場合の組織的対応力や、支障が生じた事業を復元させる力

問 20 正解 完璧 直前チェック

コンピテンシモデルの説明はどれか。

- ア 権限行使と命令統制による労務管理を批判し、目標管理制度や経営参加制度などによる動機付けが有効であるとしたもの
- イ 最適なリーダーシップの唯一のスタイルは存在せず、望ましいリーダーシップのスタイルは、状況に応じて異なるとしたもの
- ウ 人材の評価や育成の基準とするために、恒常的に成果に結び付けることができる個人の行動や思考特性を定義したもの
- エ 人間の基本的欲求を低次から、生理的欲求、安全の欲求、所属と愛の欲求、承認の欲求、自己実現の欲求としたもの

問 21 正解 完璧 直前チェック

人間考課の際、考課者が陥りやすい傾向の説明のうち、ハロー効果を説明したものはどれか。

- ア 考課者の自信欠如や個人的感情から、評価が甘くなってしまうこと
- イ 事実を確認せずに、論理的に関係がある項目に対して同等の評価をすること
- ウ 評価項目の一部が飛び抜けて高いと、他の項目も根拠なく高評価になること
- エ 部下の勤務状況を十分に把握していないので、評価が標準に集中してしまうこと

問 19 工

解説 BCMは、災害などで事業継続が困難な状態に陥らないよう、BCPでプランを立て日頃から訓練することである。よってエが正解。

ア：コアコンピタンスの説明である。

イ：想定されるすべてのリスクを回避することは、コスト面と現実的には実行できない。

ウ：BCP (Business Continuity Plan) の説明である。

問 20 ウ

解説 コンピテンシモデルは、高いパフォーマンスを発揮する際、人材の行動・思考特性をモデル化したものである。企業では、特に高業績を上げる人材がいた場合に、その人がどのように考えて行動しているかを具体的に調査し、人材の評価や育成の基準を作ることによって一定の指標とすることができる。よってウが正解。

ア：組織マネジメントの説明である。

イ：SL理論の説明である。

エ：マズローの要求5段階説の説明である。

問 21 ウ

解説 人事考課では、公平に評価しようとしても無意識にある傾向に陥りやすい傾向がある。これを心理的傾向と呼ぶ。

ハロー効果：学歴など本人の人事上とは別の要因により、高評価にしてしまうこと。

中央化傾向：評価を、中心に集めてしまう傾向のこと。

寛大化傾向：評価を、甘くし高めにしてしまうこと。

酷評化傾向：評価を、厳しい方向で行ってしまうこと。

期末誤差：評価直前の行動が影響を受け、直近の内容で評価してしまうこと。本来は、半年など決まった期間で評価しなければならない。

論理誤差：評価対象者を、あまり確認せずに、推論で評価してしまうこと。

対比誤差：周りの人と比べて、評価対象者を評価してしまうこと。

ア：寛大化傾向に該当する。

イ：論理誤差に該当する。

ウ：ハロー効果に該当する。よって正解。

エ：中央化傾向に該当する。

問 22 正解 完璧 直前チェック

次の条件においてA社の連結損益計算書を作成した場合の連結売上高は何億円か。

[条件]

- ・ A社は、B社の株式の80%を取得している。
- ・ B社は、C社の株式の60%を取得している。
- ・ B社は、D社の株式の20%を取得している。ただし、役員の派遣などはない。
- ・ A社の売上高は、7,000億円であり、その10%は、B社に対するものである。
- ・ B社の売上高は、3,500億円であり、その20%は、D社に対するものである。
- ・ C社の売上高は、2,500億円である。
- ・ D社の売上高は、2,000億円である。
- ・ A社とB社、B社とD社以外の相互間取引はない。

ア 12,300 イ 13,000 ウ 13,600 エ 14,300

問 23 正解 完璧 直前チェック

ソフトウェア開発を下請事業者に委託する場合、下請代金支払遅延等防止法に照らして、禁止されている行為はどれか。

- ア 継続的な取引が行われているので、支払条件、支払期日等を記載した書面をあらかじめ交付し、個々の発注書面にはその事項の記載を省略する。
- イ 顧客が求める仕様が確定していなかったため、発注の際に、下請事業者には仕様が未記載の書面を交付し、仕様が確定した時点では、内容を書面ではなく口頭で伝えた。
- ウ 顧客の都合で、仕様変更の必要が生じたため、下請事業者と協議の上、発生する費用の増加分を下請代金に加算することで仕様変更に応じてもらう。
- エ 振込手数料を下請事業者が負担する旨を発注前に書面で合意したため、親事業者が負担した実費の範囲内で振込手数料を差し引いて下請代金を支払う。

問22 ア

解説 問題文の条件から、連結決算の対象とするのはA、B、Cの3社になる。D社は、直接A社の影響下にはないので、A社の連結の対象外となる。

A社の売上高の10%は連結決算対象のグループ会社B社との取引だから、A社の売上高から10%分(700億円)を差し引く。B社の売上高の20%はD社に対するものであるが、D社は連結決算の対象外だから連結売上高には含まれる。

よって、A社の連結売上高は、 $7,000 \times (1.0 - 0.1) + 3,500 + 2,500 = 12,300$ [億円]である。

問23 イ

解説

ア：下請代金支払遅延等防止法第3条の書面の記載事項等に関する規則の第4条に照らして問題ない行為である。

イ：下請代金支払遅延等防止法第3条の書面の交付等に照らして禁止されている行為である。書面に記載すべき事項のうち正当な理由があるものについては記載を要しないが、親事業者は当該事項の内容が定められた後、ただちに当該事項を記載した書面を下請事業者に交付しなければならない。よって正解。

ウ：下請代金支払遅延等防止法第4条の親事業者の遵守事項に照らして問題ない行為である。

エ：発注前に書面での合意があるので、親事業者が下請事業者に振込手数料の実費を差し引いて下請代金を払っても問題ない。

問 24 正解 完璧 直前チェック

シングルサインオンの実装方式の特徴のうち、適切なものはどれか。

- ア クッキーを使ったシングルサインオンの場合、サーバごとの認証情報を含んだクッキーをクライアントで生成し、各サーバ上で保存、管理する。
- イ クッキーを使ったシングルサインオンの場合、認証対象のサーバを、異なるインターネットドメインに配置する必要がある。
- ウ リバースプロキシを使ったシングルサインオンの場合、認証対象のWebサーバを、異なるインターネットドメインに配置する必要がある。
- エ リバースプロキシを使ったシングルサインオンの場合、利用者認証においてパスワードの代わりにデジタル証明書を用いることができる。

問 25 正解 完璧 直前チェック

無線LANのセキュリティ方式としてWPA2を選択するとき、利用される暗号化アルゴリズムはどれか。

- ア AES イ ECC ウ RC4 エ RSA

問24 エ

解説

シングルサインオン：一度の認証手続きで複数のサーバにアクセスできる仕組み。パスワード認証や、デジタル証明書など利用者認証方式は複数ある。

ア：クッキーはクライアント上で保存、管理する。

イ：認証対象のサーバを、同一インターネットドメインに配置する必要がある。

ウ：認証対象のWebサーバを、同一インターネットドメインに配置する必要がある。

エ：シングルサインオンでは、利用者認証をパスワードやデジタル証明書を用いることが可能。デジタル証明書は、個人単位の認証に利用できる。よって正解。

問25 ア

解説

WPA2 (Wi-Fi Protected Access 2)：WPAの改良版で、AES (Advanced Encryption Standard) を採用したCCMP (Counter-mode with CBC-MAC Protocol) 暗号化方式である。

AES：共通かぎ暗号方式のブロック暗号であり、DESの後継規格となった米国政府標準暗号である。よって正解。

ECC (Elliptic Curve Cryptography：楕円曲線暗号)：「楕円曲線上の離散対数問題」を利用した仕組みで、べき乗の計算は簡単でも離散対数の計算は難しいことを利用している。

RC4 (Rivest's Cipher4)：ロナルド・リベスト (Ronald Rivest) によって考案された共有鍵 (秘密鍵) 暗号方式の一つ。1ビット単位で暗号化・復号が可能なストリーム暗号である。近年では、解析技術の進歩により、短時間での解読が可能となり利用を終了しつつある。

RSA (Rivest Shamir Adleman)：素因数分解の困難性を利用した公開鍵暗号方式である。RSAは標準的な公開鍵暗号方式で、発明者3人の頭文字から命名された。